

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第35786号

穂ち落

※「落穂」とは、琉球新報紙の文化面のコラムで、今回は4回目の掲載分です。10名の執筆陣の中に施設長の三浦も含まれ半年間、計13回ほどの掲載が予定されています。紙面で「覧頂けない方にも読んで頂きたくニューズレターにて転載していきたく思いますので、どうぞお付き合い下さい。

大聖、街にあり 山で悟りを開くのは簡単？だがそれを街に持ってくるのは大変(大聖)なこと。

二〇〇五年二月にネパールへ会議で行く機会が与えられた事がありました。NA(ナルコティクス・アノニマス、無名の薬物依存者という世界的自助グループ)のアジア環太平洋地区といえは聞こえが良いのですが、グループの事情で湾岸六カ国を加えて、イスラエルをヨーロッパ地区に組み込むという、たぶんアメリカ人から見ると訳の解らない国を一緒にした感覚があるのが、私が参加した、AFP(アジア・パシフィック・フォーラム)会議でした。そ

して〇五年は初めてネパールで開催されたのでした。後この会議はNA史上、最高であった会議としてNAワールドコンベンションの中で紹介されたのですが、この

忘れてしまうこと

三浦 陽二

(沖縄ダルク・チーフディレクター)

最高とは最も標高が高い場所での会議という意味でありました。会議の行われたナガルコットという集落は観光登山を行う人達の溜り場だけあって、圧倒的に空気が薄いのです。小走りどころか早歩きを

高級な中華料理屋に飛び込んでみても、カレー風味の中華料理が運ばれてくるのです。娯楽としての食事も奪われ、とにかく不都合な環境の中にあることで色々な事に気付かされ、イヤイヤながらも環境に合わせた行動を取らざるを得ない事で、妙にリアルでそれでいて変な夢を見るに至ってしまいました。

なぜか日本のお城に囚われている夢を何度も見る様になつてしまったのです。寝ても醒めてもなんだか不自由でしようがないのです。この不自由さは、私にある我儘さが引き起こしているのです。そんな事この原稿を書かなければ忘れていました。